

〔重点的な取組み〕

②世界水準の都市ブランドの確立

(i) 世界に誇れる都市空間の創造

【取組みの方向性】

人・モノ・情報・投資を呼び込める魅力を備えた都市空間の創造をめざし、大阪の顔となるまちづくりなどに取り組む。また、府内市町村や近隣府県も含めた広域的な視点に立って都市空間の創造に取り組む。

リニア中央新幹線や北陸新幹線の早期全線開業を促進し、広域的なネットワークによる連携の強化をめざす。関西国際空港の国際拠点空港としての機能強化を図るとともに、国際コンテナ戦略港湾阪神港の強化・利便性向上、広域バイエリアのまちづくりを進める。

交通ネットワークの充実・強化に向けた高速道路・鉄道網の整備を進めるとともに、高速道路の戦略的かつシームレスな料金体系の実現や、乗継改善などによる公共交通の利便性向上等に取り組む。

取組み例

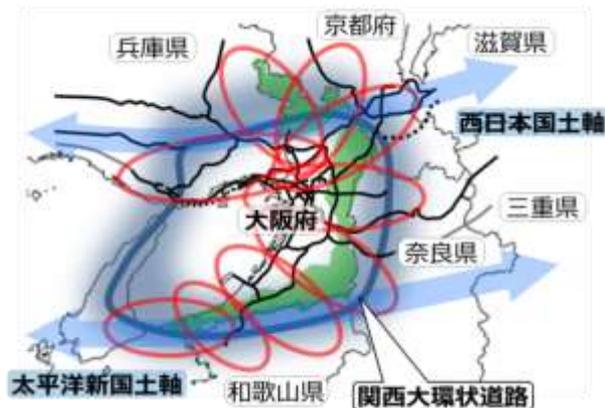
■ 広域的な視点による都市空間の創造

大阪が東西二極の一極として大きく発展していくため、2016年12月に策定した「グランドデザイン・大阪都市圏」において示した「広域連携型都市構造」の考え方にに基づき、地域資源を最大限に活かし、広域的な視点で都市間連携を進めることで、魅力的な都市空間を創造する。

【広域連携型都市構造】

関西全体を視野に、概ね関西大環状道路の範囲内を大阪都市圏として、以下の視点で、道路・鉄道・河川等広域インフラを活かして、都市構造を大胆にとらえなおす。

- ① 都市の活力の源である「人」の活動を中心
- ② 多様な機能が集積する強みを活かし、都市間連携を強化
- ③ 山や川、海などの地形的要素や、行政区域にとらわれない広域的な視点で、大胆に土地利用を転換



◇「広域連携型都市構造」を踏まえた都市空間創造の方向性

～ 地域資源を最大限に活かす ～

【産業の集積】様々な産業の集積化とネットワーク形成により、一層成長・発展する都市空間を創造

【学術・研究の集積】さらなる知的創造活動を生み、支える都市空間を創造

【集客機能の集積】国内外から多くの人が訪れる圧倒的な魅力を備えた都市空間を創造

【豊かな自然環境】豊かなみどりや水辺をさらに楽しめる都市空間を創造

【歴史・文化の集積】他にない豊かな歴史・文化を身近に感じられる都市空間を創造

【良好な居住環境】ライフデザインに応じた多様な居住環境が実現できる都市空間を創造

■うめきた2期など都心部エリアの新たなまちづくり

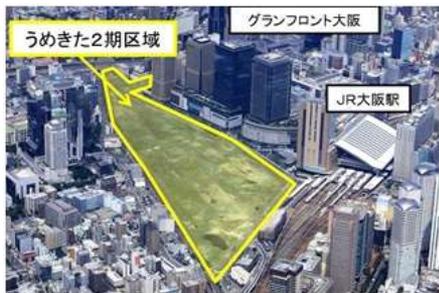
「みどり」と「イノベーション」の融合拠点をまちづくりの目標とする「うめきた2期」、「SMART RESORT CITY（夢と創造に出会える未来都市）」をコンセプトとする新たな国際観光拠点形成を図る夢洲を含むベイエリア等の大阪都心部エリアにおいて、新たなまちづくりに取り組む。

【うめきた2期】

大阪の顔、関西のハブとなる「みどりとイノベーションの融合拠点」

2024年夏 先行まちびらき

2027年春 基盤整備の全体完成



【ベイエリア】

成長戦略拠点として、さらなる民間開発事業を促進

- ・産業・物流機能や環境・エネルギー分野、集客施設等の集積促進
- ・夢洲（夢と創造に出会える未来都市）におけるIRを含む国際観光拠点の形成
- ・ベイエリア全体の活性化に向けた、大阪広域ベイエリアの将来像や整備の方向性等についての検討。



【新大阪駅周辺】

まちづくり方針の骨格などを検討

- ・スーパー・メガリージョンの形成などの新たなインパクトに備えて、20年～30年先を見据えたまちづくり方針の骨格などを検討



【大阪城東部地区】

まちづくりのコンセプトや土地利用の具体化を検討

- ・公立大学法人大阪から新大学基本構想が示されたこと等をふまえ、まちづくりのコンセプトや土地利用の具体化などを検討



【中之島】

国際的なビジネス・文化・学術・交流拠点としての機能向上形成

- ・大阪中之島美術館の整備
- ・社会学共創・産学共創・アート拠点の形成
- ・未来医療国際拠点の形成
- ・中規模の都市型MICEの実施



■ リニア中央新幹線、北陸新幹線の早期全線開業の促進

東西の大都市圏を結ぶ広域交通インフラの複数ルートを確認し、その効果を西へ波及させるため、関係団体と連携して、リニア中央新幹線や北陸新幹線の大阪までの早期全線開業を促進する。



■ 東西の大都市圏を結びリニア中央新幹線

■ 国際空港機能の強化

関西3空港一体経営を踏まえ、空港運営事業者が適切な投資と効率的な運営により、国内外からの空港利用者へのサービスを強化し、その可能性を最大限に引き出せるよう連携を図る。

空港運営事業者の自律性・自由度を尊重しつつ、国際拠点空港としての機能強化を図るとともに、関空を通じた地域の発展をめざす。



■ 大阪湾諸港の国際競争力強化

阪神港では、国際コンテナ戦略港湾として、国、大阪市、神戸市、阪神国際港湾株式会社が連携して、集貨、創貨、船舶の大型化に対応した施設整備などの競争力強化に取り組む。

将来の大阪湾諸港の港湾管理一元化に向けた取組みを進める。

■ 交通ネットワークの充実・強化

活力・成長を支えるため、物流の効率化や広域連携の強化に資する大阪都市再生環状道路や府県間道路などの道路ネットワークの構築を進めるとともに、人流を支える鉄道ネットワークの充実を図る。

【主な取組み】

- 国土軸や空港・港湾等の広域拠点へのアクセス強化
新名神高速道路（アクセス道路含む）、北大阪急行延伸、なにわ筋線、うめきた新駅、夢洲アクセス等
- 放射・環状交通、府県間連携の更なる強化
淀川左岸線、府県間道路（国道371号など）、大阪モノレール延伸

既存ストックの活用、利用者の視点といった観点から、高速道路の混雑状況に応じた料金設定などの戦略的な料金体系の実現、可動式ホーム柵設置等による安全確保や乗継時の移動負担軽減などの公共交通の利便性向上に取り組む。

取組みの工程（主なもの）

（数字は年度）



(ii) 世界的な創造都市、国際エンターテインメント都市の確立

【取組みの方向性】

都市魅力の発展・進化・発信や、観光客受入環境の充実により、観光拠点としての機能強化を図るとともに、インバウンド客を関西のみならず国内各地へつなぐ「観光」ハブとしての機能を高める。

MICE機能や国際的なエンターテインメント機能等を備えた統合型リゾート（IR）の誘致など、国際観光拠点の形成を促進する。

大阪が誇る文化や歴史的遺産、伝統芸能、スポーツ、芸術、食などの都市魅力を最大限活用し、国内外にアピールするとともに、大阪の都市魅力創造の好循環につながるよう取組みを進める。

こうした文化・観光基盤を背景に、万博やIRのインパクトも活かしながら、大阪・関西において情報が生まれるとともに、広く情報が集まり、全国・世界へ発信する機能強化を図る。

取組み例

■ 夢洲でのIRを含む国際観光拠点の形成

「夢洲まちづくり構想」（2017年8月）策定後の状況を踏まえ、特に国際観光拠点の形成に向けて、今後、具体的なまちづくりを進めるため、経済界、大阪府、大阪市により「夢洲まちづくり基本方針」を策定（2019年12月）。

MICE機能や国際的なエンターテインメント機能等を備えた統合型リゾート（IR）の誘致など、夢洲において世界に誇る魅力ある国際観光拠点の形成を公・民が協働して実現する。



※夢洲まちづくり基本方針より

■ 中之島エリアのブランド化

中之島4丁目地区は、2021年度開館予定の大阪中之島美術館の整備を核とし、隣接する国立国際美術館、市立科学館との連携により、国内有数のミュージアムゾーンの形成を図るとともに、官民の協力のもと、文化芸術拠点としてのエリアのブランド化を進める。



大阪中之島美術館
公募型設計競技 最優秀案



「中之島アゴラ構想推進協議会」において取りまとめた「中之島アゴラ構想」基本計画（案）をもとに、産学官の連携により、文化・芸術・学術・技術のあらたな交流・発信拠点形成を推進する。

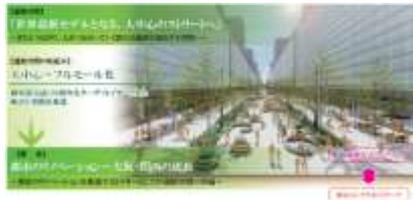
※「中之島アゴラ構想」基本計画（案）より

■ 規制緩和、既存ストックを活かした民間プロジェクトの誘導

大阪にたくさんの人が集い、活動することを実感できる、これまでにない楽しいまちづくりプロジェクトの実現に向けて支障となる規制の緩和や制度見直しを行うほか、既存のストックを活かし民間活力を導入する。

・御堂筋地区の魅力向上

人中心のストリートへ道路空間を再編し、世界に誇るシンボルストリートをめざす。



・大阪城公園、万博記念公園の世界的観光拠点化

<大阪城公園>

2017年開業のJO-TERRACE OSAKAやMIRAIZA OSAKA-JO、2019年開業のCOOL JAPAN PARK OSAKAなどによる魅力創出、にぎわいづくりなどにより世界的観光拠点化を進める。



■ COOL JAPAN PARK OSAKA
大ホール 内観

<万博記念公園>

太陽の塔の内部公開を実現を実現するとともに、指定管理者制度を導入し、世界第一級の文化・観光拠点形成に向けた取組みを加速させる。

■ 24時間おもてなし都市の推進

観光客が昼夜を問わずまちに魅力を感じ、安全で安心して旅行を楽しめる都市をめざし、Wi-Fi設置の拡充や宿泊施設、公共機関等の環境整備や観光案内機能の充実、ナイトカルチャーの発掘・創出に取り組む。



(公財) 大阪観光局

■ 大阪が誇る文化力の創造・育成・活用



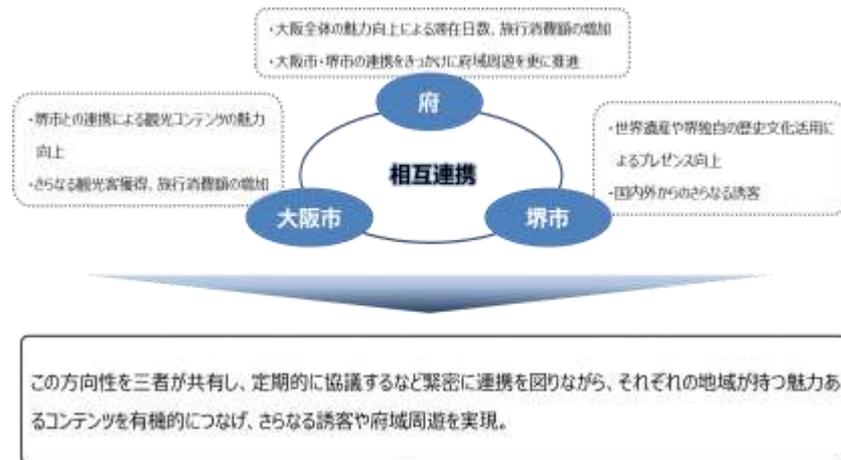
大阪の文化を保存・継承するとともに、大阪が誇る伝統芸能のデジタル向けコンテンツや大阪の食を満喫できるコンテンツ等を創出するなどして、国内外に大阪の魅力を発信する。

また、国内外からアーティストをはじめ多くの人々が大阪に集い、交流する都市をめざす。

能勢人形浄瑠璃「鹿角座」

■ 大阪府・大阪市・堺市における観光施策の連携

府・大阪市・堺市が一体となって観光施策に取り組むことで事業効果を相乗的に高め、大阪全体としてのメリット（さらなる誘客）へとつなげる、「新しい好循環」を実現する。



◇大阪府・大阪市・堺市による連携取組み

今後、大阪府、大阪市、堺市は、三者で共有する「新しい好循環」に向け、歴史・文化や世界に誇れる「食」などの観光資源や最先端技術を十分に活用した取組みを連携して進めていく。

令和2年度においては、大阪市と堺市が有する歴史・文化的資源を結ぶ先行的事業を実施する。

- ・観光周遊バスを使った周遊二ーズの実証事業
- ・大阪市・堺市連携による魅力発信事業

■ 世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の魅力発信

「百舌鳥・古市古墳群」が、2019年7月にアゼルバイジャンで開催された第43回世界遺産委員会において、世界遺産に登録。今後は、古墳群の保存管理に配慮しつつ、世界遺産としての魅力の発信に、大阪府・堺市・羽曳野市・藤井寺市の4者が一体となって取り組む。



■ 仁徳天皇陵古墳

■ 関西広域での観光振興

関西広域連合や関経連等の経済団体が参画する関西観光本部（広域連携DMO）が策定した「関西ツーリズムグランドデザイン2021」に沿って、国、日本政府観光局（JNTO）、関西各地の自治体・DMO、民間事業者及び関西観光本部が協働し、「アジアの観光・文化・スポーツNo.1エリア」をめざす。



関西観光本部HPより

■ 大阪観光局による観光事業の推進

平成25年4月、戦略的に観光集客を促進するエンジン役として、府・市・経済界により事業を開始。平成28年に日本版DMO候補法人、29年に日本版DMO法人に認定され、観光地域づくりの舵取りとしての役割を担っている。

<主な事業>

（1）プロモーション活動の推進

・海外・国内プロモーションなど

（2）戦略的マーケティングの実施

・閑空における観光動向・観光消費額調査など

（3）観光情報の発信

・観光案内所の運営など

（4）観光魅力の創造

・市町村と連携した府内広域周遊の促進など

（5）MICE誘致の推進

・MICE推進方針に基づく国際会議の誘致など



■ 観光案内所



■ 公式ガイドブック

取組みの工程（主なもの）

（数字は年度）

→ 大阪市の博物館群（ミュージアム）の地方独立行政法人化(2019)

→ 都市魅力創造戦略の推進：来阪外国人旅行者目標数：1,300万人(2020)

→ 大阪中之島美術館開館（2021）

■ ラグビーW杯(2019)

■ 東京オリンピック

■ ワールドマスターズゲームズ2021関西

■ 2025年日本国際博覧会（2025）

・パラリンピック(2020)

（2021）

〔重点的な取組み〕

③内外から多様なプレイヤーが集い、活躍する場の創出

(i) 多様な人材が活躍できるオープンでチャレンジングな環境整備

【取組みの方向性】

内外から多様な人材を呼び込み、大阪での活躍を促進するために、特区等を活用したビジネス環境の整備や創業など新たなチャレンジを支援する取組みや出会い・交流の場の創出を積極的に進める。

知の拠点である大学や研究機関、経済界等とも連携し、高度人材などの育成や確保、大阪での定着に努めるとともに、ダイバーシティの考え方に立ち、女性や外国人高度専門人材など多様な人材が社会で活躍できる環境づくりに取り組む。

取組み例

■ スタートアップエコシステム・イノベーションエコシステムの構築 ■ イノベーション・エコシステム (イメージ図)

起業家、研究者、大企業、ベンチャーキャピタル (VC) などをつなぐ「大阪イノベーションハブ (OIH)」の取組みなど府市民間による各種支援プログラムを推進するとともに、オープンイノベーションの取組みや官民連携ファンドの活用を促進することで新たな成長エンジンとなりうる成長産業を創出する。さらに、大阪府、大阪市、堺市、大阪産業局及び経済団体等が連携し、「大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアム」を設立。オール大阪で起業家を生み育てる環境を整備するとともに、エコシステム構築と世界に冠たるスタートアップ・エコシステム拠点都市の形成をめざす。



■ 関西経済同友会/メンタープログラム



- 国際イノベーション会議 Hack Osaka
- OIHシードアクセラレーションプログラム (スタートアップの成長支援)
- 大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアム



■ 大学や経済界との連携による人材育成等

国内外の大学の誘致や外国大学、大阪大学や、大阪府立大学・大阪市立大学をはじめとする府内大学、企業との連携促進等により、国際競争を勝ち抜くハイエンド人材を育成する。

大学におけるPBL (Problem-Based Learning : 課題解決型授業) やインターンシップなどの産学官連携プログラムの実施により、若者の就業観・職業観の養成や、実践的な人材育成を行う。

- 産学協働人材育成機構 AICE主催 PBLマッチング会



■ グローバル人材の育成や留学生などの外国人高度人材等の活用

・外国高度専門人材等の受入れ環境整備

外国人高度専門人材やその家族に対する在留規制の緩和等の動きとあわせて、留学生の就職のサポート、大学等との連携による住まい確保など、留学生をはじめとする外国人の受入環境の整備を進め、優れた人材を世界から呼び込む。

■大阪府外国人情報コーナー
(大阪府国際交流財団)



・オール大阪での外国人材の活用支援

入管法改正を踏まえ、**特定技能制度の創設に伴い**、新たな外国人材を積極的に受け入れ、深刻な人手不足を補うとともに、大阪経済の持続的な成長・発展の担い手として活躍できるよう、オール大阪で**取組みを進めていく**。

・グローバル人材の育成

国際バカロレアコースを設ける公設民営学校の開設、小・中・高等学校における英語教育の充実やグローバルリーダーズハイスクール (GLHS) や高校生等海外進学支援事業 (おおさかグローバル塾)、最先端のICT学習環境を活用し、児童生徒の発達段階に応じた「プログラミング的思考」を含めた情報活用能力の育成等を行うことによりグローバル人材を多数輩出していく。



■高校生等海外進学支援事業
(おおさかグローバル塾)

■ 特区等を活用したビジネス環境の整備

関西圏国家戦略特区雇用労働相談センターによる海外からの進出企業への労働法制面からのサポートや大阪外国企業誘致センター (O-BIC) 等の取組みにより、国内外のベンチャー企業やグローバル企業の実立・誘致、外国企業の大阪への進出等を促進する。



■関西圏国家戦略特区雇用労働相談センター

■ 女性や若者、高齢者、障がい者など多様な人材の活躍

女性、若者、高齢者、障がい者等の**多様な人材**が能力を発揮し、**活躍できる環境づくりのため**、大阪労働局 (ハローワーク) との連携体制を強化し、「OSAKAしごとフィールド」を軸に**働きたいと思う全ての求職者への就職支援を進めている**。

また、人材確保に課題を抱える中小企業を中心に人材確保支援を推進する。

・企業と人との出会いの場づくり

■OSAKAしごとフィールド
求職者と企業への**一体的な支援を実施し、「企業と人が出会う場所」を展開**

■オール大阪で女性活躍推進の機運醸成のための様々なイベントを実施
(ドーン de キラリフェスティバル)



・企業の人材確保支援

■製造関連・運輸関連・建設関連・インバウンド関連分野を中心に、女性や若者へ魅力を発信し、人材確保力の強化を図るプログラムの提供



取組みの工程 (主なもの)

→ 公設民営学校 (国際バカロレア等) 「大阪市立水都国際中学校・高等学校」の開設(2019)

→ 大阪大学グローバルビレッジ運用開始 (2020)

→ 大阪府市新大学発足 (2022 予定)

多様な人材が活躍できる環境整備

(数字は年度)

(ii) 民間活動促進の仕組みづくり

【取組みの方向性】

多様な人材の活躍を進めていくため、民間が自由に活動できる土壌が重要。大阪の「民都」としてのDNAを活かし、さらなる環境整備を進める。

規制改革等により民の活動を活発化させるとともに、公と民が手を携え、社会的課題の解決を図りながら、住民サービスの提供と地域活性化の実現をめざす公民連携の強化を図る。

将来の公益庁創設などの国制度に踏み込んだ改革を視野に、「フィナンソロピーにおける国際的な拠点都市」をめざした取組みを進める。



取組み例

■ 民間活動を促進するための規制改革

東京等よりも厳しい規制は全廃するという基本方針のもと、国への働きかけ、特区制度を活用した規制改革や税制措置等の総合的かつ集中的な実施、大阪府・大阪市における更なる規制緩和を行い、「世界で最もビジネスがしやすい環境」の実現をめざす。

■ 公民連携の強化

「民でできるものは民へ」を基本に取り組んできた従来の公民連携の枠組みを前進させる。民間企業や大学等と行政それぞれのニーズをマッチングし「win-win」の関係による新たな公民連携のモデルを確立することで社会的課題の解決を図りながら、きめ細かな住民サービスの提供と地域活性化を実現する。

まちづくりにおけるコンセッションやBID、PPP/PFI、ネーミングライツなどの活用を進め、民間の資金とノウハウを活かしたまちづくりを実現する。

■ 都道府県では全国初となる企業・大学等の一元的窓口「公民戦略連携デスク」



(出典：大阪府ホームページ)

■ 住民が住み慣れた地域で安心して快適に住み続けられるよう、多様な主体が参画して課題解決型のまちづくりを目指す「スマートエイジング・シティ」



(左 出典：(独)都市再生機構ホームページ)

■ 民間活力の導入によりリニューアルした天王寺公園エントランスエリア「てんしば」



(出典：大阪市ホームページ)

■フィランソロピーの促進、非営利セクターの活性化

市民・非営利セクターの役割が世界的にも大きくなり、寄附や社会的投資等を通じて社会的課題の解決を図るフィランソロピーが世界の潮流になりつつある。

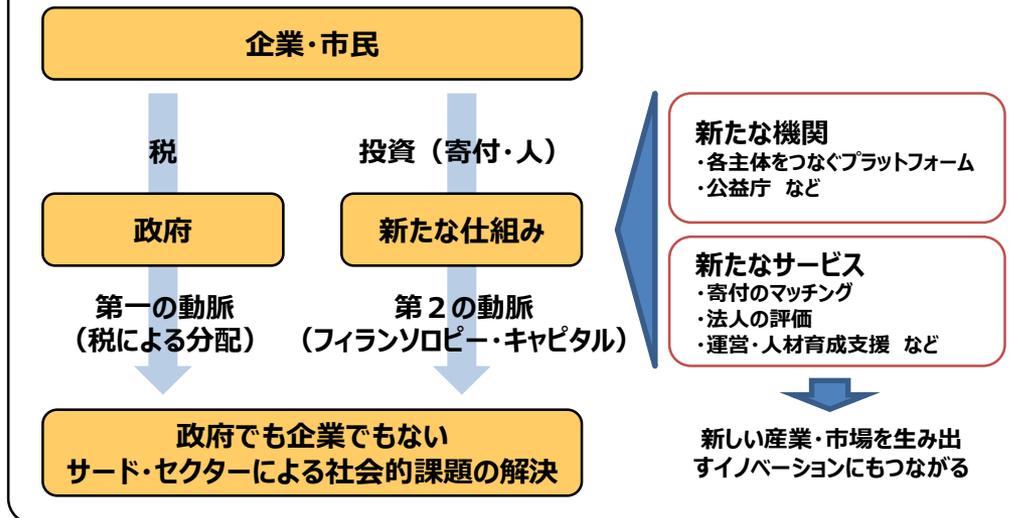
フィランソロピーの促進により第2の動脈（フィランソロピー・キャピタル）を大阪に取り込み、非営利セクターの活性化を通じて、大阪が「フィランソロピーにおける国際的な拠点都市」をめざす。

まずは、公益社団・財団法人や学校法人、社会福祉法人、NPO法人など多様な担い手が参画する「『民都・大阪』フィランソロピー会議」において、「民都・大阪」の実現に向けた議論・検討を行う。

「民都・大阪」フィランソロピー会議の取組み

- 「民都・大阪」の実現に向け、多様な担い手が法人格の縦割りや営利・非営利の区分を越えて一堂に集い、その存在感を国内外に示す「核となる場」として、「民都・大阪」フィランソロピー会議をつくる
- 新たな連携や協働を生み出し、フィランソロピー都市宣言等により国内外に発信することで、第2の動脈として資金や人材を集め、民間公益活動の活性化につながるソーシャルイノベーションを創出
- 新たな産業や市場、雇用を生み出すことで大阪の成長にもつなげていく

第2の動脈のイメージ

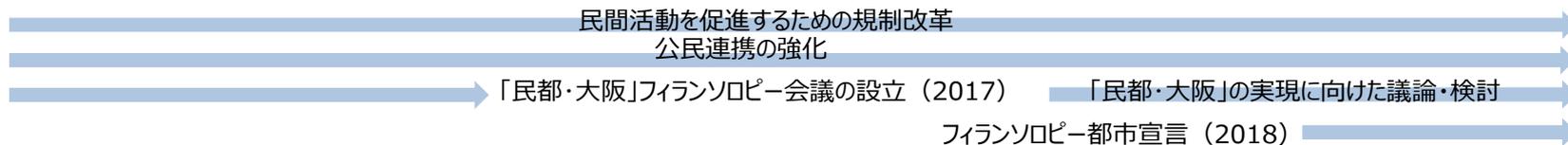


【「民都・大阪」フィランソロピー会議を通じた好循環のイメージ】



取組みの工程（主なもの）

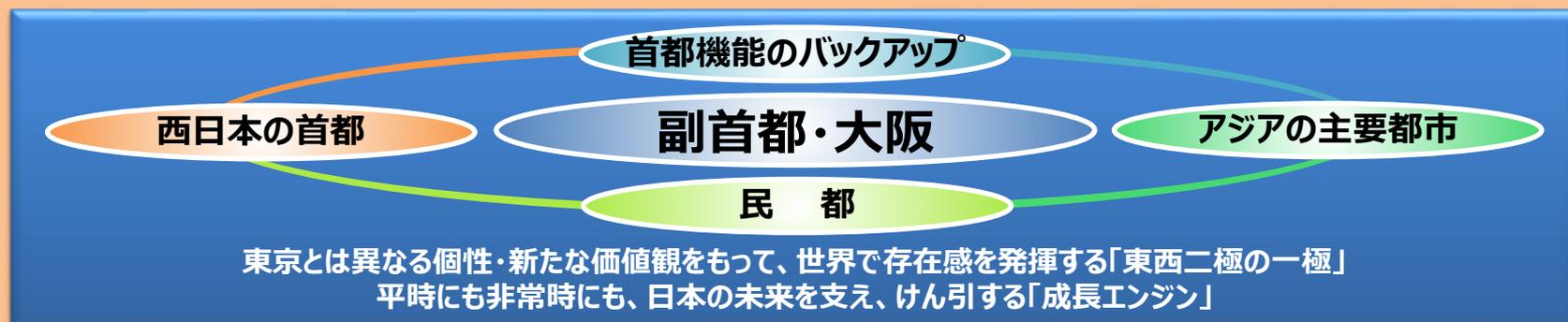
（数字は年度）



第3章 その先にあるもの ～副首都として発展する未来の大阪～

「西日本の首都」「首都機能のバックアップ」「アジアの主要都市」「民都」の4つの役割を実現した「副首都・大阪」は、万博のレガシーやIRのインバウンド効果も活用して、「東西二極の一極」「日本の成長エンジン」の地位を確固たるものとする。

これらにより、副首都・大阪は、世界の中では、産業・文化・サイエンスの一大拠点として、日本の中では、リニア開通後のスーパー・メガリージョンの西の核として、住民にとっては、豊かで、利便性の高い都市生活が享受できる都市として、持続的に大きな発展を遂げる未来を実現する。



万博のレガシー

- ◎健康・ライフサイエンス分野の世界的な先進地域としての地位確立
次の50年に向け、人類の課題解決策や新たなライフスタイルを提案
- ◎会場周辺地域のまちづくりの進展
夢洲地区を中心とするベイエリア地域は、「知の実践」拠点として整備が進展
など

IRのインバウンド効果

- ◎MICE機能の発揮等による国内外からの集客
毎年7,600億円もの経済波及効果
- ◎世界的な認知度向上
観光客の大幅増や国際会議等を通じた情報発信により副首都・大阪の認知度向上
など

大阪の未来像

- ◇万博のレガシーとIRのインパクトを活かして、最先端のイノベーションと民の力の発揮で、日本・世界の未来を支え、けん引する世界有数の大都市として、持続的に発展
- ◇副首都発展の果実により、住民にとって安全・安心、豊かで利便性の高い都市生活を実現

世界の中で

世界が注目する産業・文化・サイエンスの拠点

- 大阪・関西の産業、文化、サイエンスの幅広く厚みのあるポテンシャルが花開き、世界中から企業や人材を惹きつけるブランド力を発揮するとともに、健康・長寿分野のみならず、世界的な課題解決に寄与する課題解決最先端都市として、グローバルな都市間競争に打ち勝つ。

日本の中で

スーパー・メガリージョンの西の核

- リニア中央新幹線の大阪開業によって形成される世界最大のスーパー・メガリージョンの中で、大阪を中心とする副首都圏は独自の経済、文化を発展させ、世界に向けたわが国の西の玄関として東京と並び立つ存在感を発揮する。

住民にとって

豊かで、利便性の高い都市生活

- 世界最先端のイノベーションの成果によって、健康長寿の実現をはじめとする社会の様々な課題解決を図る。また、持続的な経済成長を図るとともに、民のダイナミズムを活かして、その果実によって安全安心の確保、豊かで利便性の高い生活環境を実現する。

